

九州兼喜

2023. 1

No. 146

恭賀新年



謹んで新年の
ご祝詞を申し上げます

令和5年 元旦

年頭のご挨拶

九州兼喜会
会長

篠森義晴



明けましておめでとうございます。

清水建設九州支店の皆様、又、九州兼喜会の皆様方におかれましては、穏やかな新年をお迎えになられました事と、謹んでお慶び申し上げます。旧年中は皆様方に多大なるご高配を賜り、心より御礼申し上げます。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと本当に様々な事がありました。新型コロナウイルス感染拡大の恐れが依然として残る中、何とか無事に北京冬季五輪が開催されました。選手達の活躍に明るい兆しを感じ、平穏な世界が徐々に戻って来るのではと期待していた矢先、ロシアがウクライナへ侵攻しました。五輪という平和の祭典が開催されている最中の侵攻であり、現代の世界でそのような戦争が現実起こるとは大変信じ難く、とても悲しく、強い憤りを感じました。一日も早く平和が訪れる事を願うばかりであります。

国内においても安部元首相が銃撃を受けお亡くなりになられるという考えられない事件がありました。台湾海峡問題、エネルギー問題、世界同時インフレ、歴史的な円安、半導体不足、多発するサイバー攻撃、経済も金融も安全保障も憂慮すべき事態が山積しております。このような憂慮すべき事態であるにもかかわらず、本質をついた議論がなされていないような気が致します。日本の未来はどうなるのか、世界各国の分断が修復不能になっていくのではないかと、とても心配になります。

我々建設業界においても課題が山積しております。原油をはじめとした様々な諸資材の価格高騰、外注費や物流価格の高騰などにより収益が圧迫され予断を許さない状況となっております。労務不足も大変深刻で、本質的な解決策も無いまま2024年問題への対応を迫られております。10月からはインボイス制度が開始されます。猶予期間があるとはいえ、免税事業者が少なからずいるこの建設業界にどのような影響を及ぼすのか憂慮する次第であります。

最近よく「持続可能性」という言葉を耳にします。建設業が更なる発展を遂げるため、環境に配慮し、生産性を向上させ、DX化や省力化、自動化やロボティクス化などを積極的に導入し、時流にあわせて柔軟に変化をしていかなければならないという事は周知の事実であると思えます。しかし私が最も重要だと思うことは「現場で働く方々の持続可能性」であります。現場で働く方々の「心」

にもう少し意識を傾けなければ取り返しのつかない事態になるのではないかと危惧しております。

最澄が開いた比叡山延暦寺の本尊の前に「不滅の法灯」と呼ばれている法灯があります。その法灯の火は1200年もの間一度も消えることなく灯され続けていることからこのような名前と呼ばれています。大切な火を守るために、いかなる時も菜種油を継ぎ足し、絶やすことなくその営みを続け今日に至ります。一度でも油が断たれると大切な火が消えてしまいます。「油断」という言葉の由来であるとも言われています。

驚くべきことは、その油は気付いた者が注ぐという事です。担当者や係を決めると、当事者意識が希薄になるからだと思います。大切なことは全員で取り組む。他人ごとにせず、心とチームワークで1200年もの間大切なものを守ってきました。仕組みやシステムではなく「心」で守って来たのであります。ここに本質があるのだと思います。

建設業における安全や品質も同様であります。誰かがするだろう。きっと大丈夫だろう。自分には関係ない。このような当事者意識の欠落した状態では、安全も品質も守れるはずがありません。元請け、下請け、業種、部署、上司に部下、様々な立場があるとは思いますが、大切なものを守る為に意識を一つにしなければなりません。

良好なコミュニケーションが無ければ、一致団結して目的目標を成し遂げることはできません。コミュニケーションは人間関係の潤滑油とも言われており、この油が断たれると、重大な弊害が生じる事は言うまでもありません。積極的にコミュニケーションを取ることは容易な事ではありません。一人でテレビを見たり、スマホをいじっていたりする方が楽だからです。立場に関係なく、自分を律して自らコミュニケーションを積極的に取りに行く必要があります。

先日、坂尾支店長から「平凡は妙手に勝る」というお言葉を頂き大変感銘を受けました。これは将棋界の巨人、大山康晴十五世名人の名言であります。基本に立ち返ることが如何に難しく、如何に重要であるかを表した言葉であります。

挨拶をする、会って話す、相手の立場になって聴く、思いやりを持つ。変化が激しく、難しい今の世の中だからこそ、このような基本的な事が今一番大切なのではないのでしょうか。人間関係の潤滑油がしっかりと満たされていけば、一致団結もできるでしょうし、事故も減ります。問題の本質を捉えた議論も深まるのではないのでしょうか。

新年を迎えるにあたり、九州兼喜会一同、心を大切に、コミュニケーションを密にとり、一致団結して清水建設様の礎となれるよう精進する所存であります。清水建設の皆様におかれましては本年も何卒ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

また、健康な身体がなければ、何も為すことができません。健康な心身の上に安全も品質もあると存じます。皆様方が心身ともに健やかで、卯年らしく高らかに飛躍できる一年となりますようご祈念申し上げて、新年の挨拶とさせていただきます。

年頭のご挨拶

清水建設(株) 九州支店
執行役員支店長

坂尾 彰 信



新年あけましておめでとうございます。

兼喜会の皆様方におかれましては、つつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は格別のご支援、ご協力を賜りまして、心より感謝申し上げます。本年も引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。昨年を振り返りますと、収束しそうでしない不安定な新型コロナウイルス感染状況の中、様々な行事を少しづつ通常実施に戻していき、前年に比べ兼喜会のみなさんとの会話もより多くできるようになりました。また困難な課題が発生した時に、九州兼喜会の結束力を肌で感じる場面もいく度ありました。改めまして本当にありがとうございました。

さて昨年はコミュニケーションの重要性を皆で語りながら『挨拶運動』、『カジュアルデー』『教宣ポスター』など兼喜会の皆様の協力を仰ぎながら活動を行いました。災害の大半が行動災害である中、今年も是非この活動を継続することによって、より深いコミュニケーションづくりを目指していければと思います。特に『挨拶運動』については稚拙とお感じになる方もいらっしゃるかもしれませんが、コミュニケーションの原点であり、これを習慣化することは、強く安全なチームづくりにつながるものと考えます。高い理想かもしれませんが、現場においても、立場、職種、会社等の違いに関係なく、「危ない」と思われる行動、設備、習慣等について分け隔てなく声をかけられるようになれば、より安全な職場になると思います。皆様のご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

清水建設の社是である「論語と算盤」の第5章理想と迷信の中に『熱い真心が必要だ』という章句があります。当社社員への“一番心に響いた章”というアンケートで一番回答の多かった言葉でもありました。この中で「どんな仕事でも『趣味』—ワクワクするような面白みをもたなければならない」と綴られています。また、「『趣味』という字は『理想』とも『欲望』とも『好んだり楽しんだりする』という意味にも受け取れる」とあります。

少々わかりにくいですが、皆と議論する中で、これを「好奇心」と解釈しました。

『子どもは40000回質問する』という本があります。人の好奇心について書かれている本ですが、その中で、人間の好奇心は“個性”ではなく“状態”である・・・すなわち“環境”によって大きく左右される・・・と綴られています。自分自身の好奇心を高め、周りの人の好奇心を喚起し、現場が更に「夢中になれる仕事」になれるよう、世代を超えて皆様と一緒にその環境、雰囲気づくりを継続していければと思います。

2024年問題含め今年もいくつかの難関をこえていかなければならない一年となりそうですが、今年こそは九州の安全文化復活を目指して皆で乗り切ってまいりましょう。

結びになりますが、九州兼喜会各社様の益々のご隆盛とご繁栄、併せて令和5年が皆様方にとって素晴らしい一年となりますことを心より祈念申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

第30回 清水建設全国連合兼喜会 後継者育成研修報告書

鬼塚電気工事(株) 竹尾正義
(有)桑野建設 桑野孝介

令和4年11月17日から11月18日の日程で清水建設全国連合兼喜会第30回後継者育成研修が行われ、九州兼喜会青年部から2名が参加しました。

初日は清水建設株式会社本社2階 シミズホールにて、清水建設様の4名の幹部の方々より講話をいただきました。東京兼喜会青年部 岡野 道正 部長による司会のもと、開会及び主旨説明が、全国連合兼喜会 青木 茂 副会長よりありました。

その後、全国連合兼喜会 中橋 博治 会長より開会のあいさつを頂きました。

今回は、記念すべき30回目の育成研修となり、また3年ぶりのリアル開催となります。清水建設様の幹部の方々のお話を直接聞ける大変貴重な機会であります。本研修が有意義で実りある研修となりますように、とのお言葉を頂きました。

1. 清水建設株式会社 専務執行役員

東京支店長 堤 義人様による講話

①国内の建築事業に関して

2021年度の建設業界は、受注・完成工事高に関してはコロナの影響から回復傾向でありました。更に今年度は、ここ近年にない消化高となっております。今後、更に繁忙期となることが予測されますので、兼喜会の皆様にはぜひ多大なる協力をお願いします。また、国内の建築事業に関しては、工事の大型化の傾向が顕著であります。2020年度以降は、100億円以上の物件が多くなっており、弊社に関していえば、豊海のタワーマンションや、トーチタワーの受注などが挙げられます。

②建築資材高騰、物価上昇への対応に関して

今年度はかつてない速さと規模で物価上昇が進んで

おり、建設業界に関しても同じことが言えます。清水建設としても得意先に対して、物価上昇による価格への転加の交渉を行っているが、簡単には認めて頂けない状況です。協力会社の皆様も、物価上昇に伴う建築資材の高騰に対して、建築主との交渉にあたっては客観的な資料を提示し、筋道立てて提案を行うよう宜しくお願いします。

③受注戦力の変化

～コスト勝負ではなく、技術力で勝負を～

また、近年は単にコストを下げて受注に向けて動いていくのではなく、技術開発など清水建設にしかできない方法で受注を獲得していく傾向にあります。今回、受注が決まったトーチタワーの、ダイヤグリッドR工法や、花びら拡底杭、DX COREなどの独自の技術を駆使し、コスト勝負とは一線を画す形で受注獲得を目指してまいります。

④協力会社の皆様への施策に関して

上記施策に関しては、若年の入職者の確保に対する取り組みとして、4週8休の推進に力を入れておりますが、いまだ道半ばという状況です。東京や東北など、延べ労働時間が増えている地域で休業災害の発生が増加しております。また、高齢者、新規入職者、細部の指導が難しい超大型現場での事故発生が増えているのも今年度の傾向です。

協力会社の皆様へのご願いとして、作業員の送り出し教育の徹底、安全・現場での注意事項に関してしっかりと腹おちするまで説明を繰り返し行いようお願いします。

最後に、企業経営の目的は、成長しながら存在し続けることです。そのためには、時流を読み、適応していくことが大切です。皆さんの発展が清水建設の

発展につながっていきます。ぜひそれぞれの会社に戻って力をいままで以上に発揮してください、とのお言葉を頂きました。

2. 清水建設株式会社 常務執行役員

土木東京支店長 齊藤 武文様による講話

①土木におけるDX・ICTへの取り組み

上記の取り組みとして、現場の生産性向上をはかる「iコンストラクション」の導入に注力しております。測量、設計、施工、維持管理の各段階でICTを活用することで生産性の向上を目指します。新東名高速道路川西工事の具体的な事例の説明を行われ、「ドローンを用いた測量による、高精度な3次元データの取得や、それに伴う測量効率向上、危険個所の事前確認・可視化により、安全性の向上につながりました。」というお話を頂きました。その他、タブレットを用いたARデータの活用や、リモートによるVRネットワーク技術の導入で、複数の遠方の箇所からでも同時に会議が行え、業務の効率化の向上につながりました。

最後に、その他の取り組みとして、未来懇話会を通じた兼喜会及び主要業者との連携のお話がありました。未来懇話会の機会を通じて、建設業界を取り

巻く諸問題解決の為の意見交換や、対策の水平展開に今後も力を入れていきます、皆様ご協力のほど、宜しく申し上げます、とのお言葉を頂きました。

3. 清水建設株式会社 建築総本部 購買本部長 山岡 正得様による講話

①建設業の担い手確保に関して

課題としては建設技能労働者の高齢化があげられます。2026年には65歳以上の働き手が約50万人減少すると言われております。今後5年間で毎年10万人の新規入職者を確保していかななくてはならない計算です。大幅な建設技能者の減少予測の中で、確実に工事を消化していくためには、

- (1)必要な人員の確保
- (2)工業化工法・施工ロボット等の採用による現場作業の削減(物的労働生産性の向上)
- (3)十分な工期の確保(適正工期)
- (4)仕事量の平準化を目指す(繁閑の波を小さくする)等が挙げられます。

協力業者の皆様としての喫緊の課題は、新規入職者の確保をいかにして行うかになります。具体的には、

- (1)新卒採用の促進
- (2)退職自衛官の採用促進



- (3)非正規雇用者等の採用促進
 - (4)外国人技能実習生の採用
- などの方法が考えられます。

まとめとして、建設業の担い手確保を促進していくためには、現在の傾向として考えられる、

- (1)一人親方よりも正社員
- (2)日給制よりも月給制
- (3)社会規範を整備しているという建設業の誇り
- (4)社会保険等の充実
- (5)労働時間の削減

等の点を加味しながら処遇の改善や、働き方改革の推進に注力していきましょう、とのお言葉を頂きました。

4. 清水建設株式会社 安全環境本部長

伊藤 勝啓 様による講話

①令和4年度の災害発生状況の報告

度数率は0.80で平成26年度に次ぐ数字で悪いです。墜落災害に歯止めがかからない状況が続いており、また高齢者(60歳以上)の災害が多発傾向にあります。紹介した事例の墜落災害のすべてが安全带未使用による災害であった。自社の作業員の作業状況について、もう一度再点検を行ってください、との

お話を頂きました。

危険対応能力向上に向けた教育として、

- (1)強力なリーダーシップを発揮し、安全管理を断行する
安全リーダー及び、育成拠点の整備
 - (2)現場で作業員を清水安全人間に育てるネットワーク構築
 - (3)安全道場
- 等についての説明を頂きました。

最後に、伊藤様に対応のご経験をされた死亡災害の説明をされ、「経営リスクを念頭に置いた危機管理と、人を大切に作る安全文化の育成」を強く再認識してください、との力強いお言葉を頂きました。

今回、ご多忙の中、講話を頂きました清水建設幹部の方々をはじめ、渋谷史料館の井上館長様、各種段取をくださいました清水建設調達部の皆様、更には現地でのご対応を頂きました東京兼喜会の皆様には、多大なる感謝を申し上げます。この2日間の貴重な経験を自社で現場で活かしていき、今後も清水建設様、また兼喜会の発展に貢献していける人材になるべく尽力して参ります。今回は、このような機会を頂き本当にありがとうございました。



兼喜会議事録

○理事会

と き	8月3日(水) 12:00~
と ころ	兼喜会事務所
出席者	調達部より 谷口部長 様 篠森会長他8名

【議 題】

1. 全九州役員会（9月開催）の件
2. 青年部
3. その他



○理事会

と き	10月5日(水) 12:00~
と ころ	兼喜会事務所
出席者	調達部より 谷口部長 様 篠森会長他8名

【議 題】

1. 全国連合兼喜会第3回支部長会議の件
2. 全九州役員会（12月開催）の件
3. 青年部
4. その他

○理事会

と き	11月8日(火) 17:00~
と ころ	鹿児島市内
出席者	調達部より 谷口部長 様 篠森会長他6名

【議 題】

1. 全国連合兼喜会第3回支部長会議報告の件
2. 全九州役員会（12月開催）の件
3. 全国連合兼喜会第64回定時総会(東北大会)
予備登録の件
4. その他

○役員会

と き	9月9日(金) 16:00~
と ころ	宮崎観光ホテル
出席者	調達部より谷口部長 様 篠森会長他15名

【議 題】

1. 令和4年度九州兼喜会、災害防止協議会決算
中間報告の件
2. 西日本地区交流会の件
3. 全九州役員会（12月開催）の件
4. 令和5年度九州総会の件
5. その他
6. 各支部の意見

○役員会

と き	12月1日(木) 16:00~
と ころ	ソラリア西鉄ホテル福岡
出席者	篠森会長他16名

【議 題】

1. 令和5年度九州総会の件
2. 全国連合兼喜会第64回定時総会(東北大会)
予備登録の件
3. その他
4. 各支部の意見



○青年部幹事会

と き	9月5日(月) 12:00~
と ころ	支店5階会議室
と き	10月11日(火) 12:00~
と ころ	支店5階会議室
と き	11月28日(月) 18:00~
と ころ	福岡市内

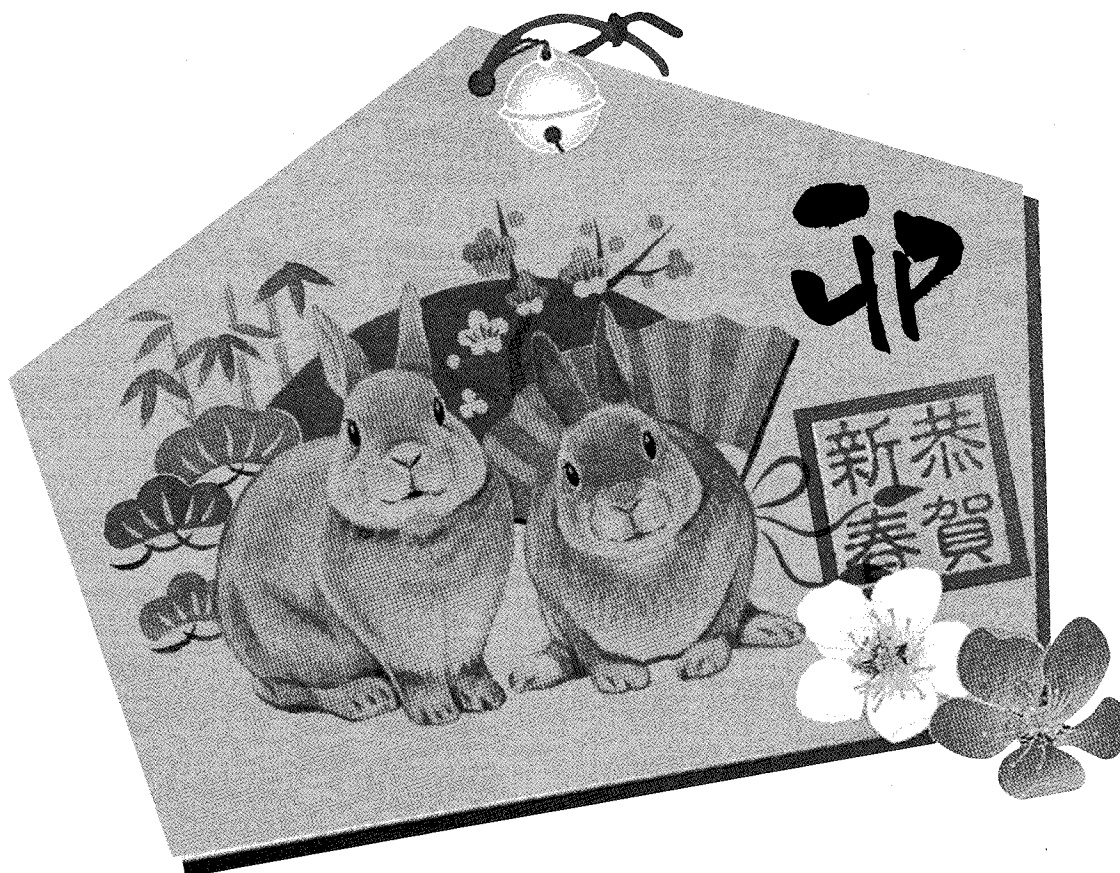
○青年部後継者育成研修

と き	11月17日(木)~18日(金)
と ころ	清水建設(株)本社
出席者	鬼塚電気工事(株) 竹尾 正義 (有)桑野建設 桑野 孝介

会員の動向

会員名変更

○沖縄古賀防水工業(株) (防水・塗装) R4.11.1変更
旧会員名：古賀 博美→新会員名：古賀 博昭



発行所 福岡市中央区渡辺通3-6-11 福岡フコク生命ビル
清水建設九州支店内 九州兼喜会

印刷所 川本印刷株式会社
TEL 092-591-5110